

コニカミノルタ堺サイト 環境・社会報告書 2011



日本庭園に咲く紅白の梅(大仙公園)



KONICA MINOLTA

ご挨拶

平素は、コニカミノルタグループ 堺サイトの活動にご協力を賜り、誠に有難うございます。

私どもは、地域の皆様を始め、多くのステークホルダーの方々にサイト内の活動をご理解頂くため、主要サイトにおきまして「環境・社会報告書」を、毎年発行しております。

本年度も、堺サイトの事業内容や省エネへの取り組み、環境活動とその成果、環境データの公開、安全防災活動、地域社会活動などを紹介するため、「環境・社会報告書 2011」を発行させて頂きました。

多くの皆様にご一読頂き、私どものサイト内の活動をご理解頂ければ、幸いです。

これからもコニカミノルタグループは公正・透明な企業活動を行い、環境に対する取り組みをご理解頂くと共に、皆様からの率直なご意見を謙虚に受け止め、サイト内の活動に反映させて頂いてまいります。

今後共、皆様からのご指導を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社
関西地区エリアリーダー
道上 正紀

1. サイト概要

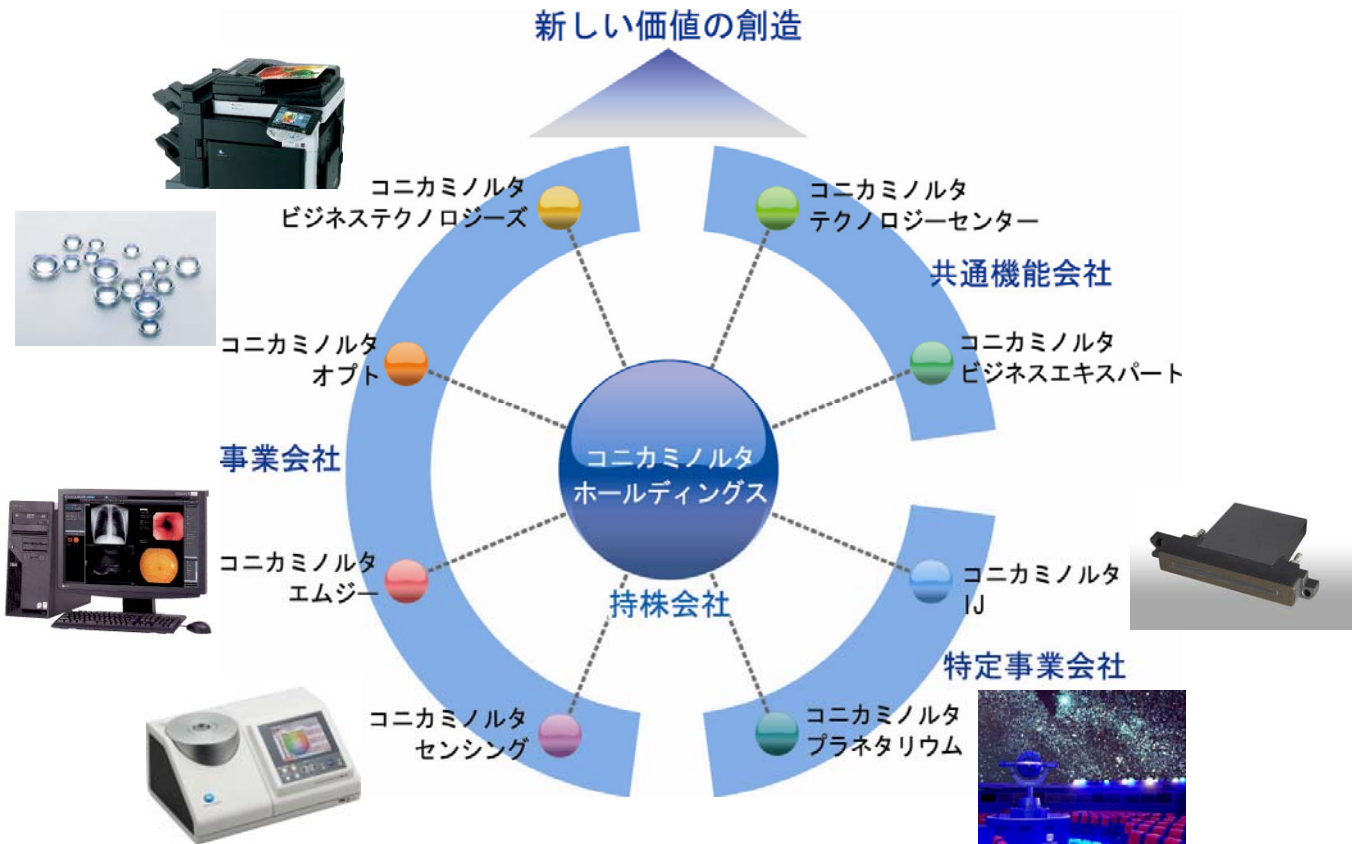
サイト名	: コニカミノルタ堺サイト
所在地	: 〒590-8551 大阪府堺市堺区大仙西町3-91
設立	: 1937年
在籍人員	: 255名 (2011年3月1日現在)
敷地面積	: 20,740㎡
主要業務内容	: 産業用・ヘルスケア用計測機器等の開発、設計、製造、サービス及び販売
在籍会社	: コニカミノルタセンシング株式会社 コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社 コニカミノルタ総合サービス株式会社 コニカミノルタエンジニアリング株式会社 コニカミノルタ物流株式会社

【目次】

	ページ
1. サイト概要	1
2. コニカミノルタグループのご紹介	2
3. 「エコビジョン2050」と「中期環境計画2015」	3
4. 2010年度の進捗状況	4
5. 環境負荷概要	5
6. 環境活動	6
7. 安全衛生・防災活動	9
8. 地域交流	9
9. 用語集	10

2. コニカミノルタグループのご紹介

コニカミノルタグループは、持株会社であるコニカミノルタホールディングス株式会社のもと、事業ごとに分社した事業会社と共通機能会社によって構成される企業グループです。これまで培ってきた材料、光学、微細加工、画像という4つのコア技術をもとに、世界各国のお客様にさまざまな製品やサービスを提供しています。今後も、経営理念である「新しい価値の創造」を探究し、イノベーションを続けてまいります。



持株会社

コニカミノルタ ホールディングス株式会社

コニカミノルタグループの経営戦略の策定、推進、グループ経営の監査、管理、統括

本社所在地 東京都千代田区丸の内1-6-1
 代表者 代表執行役社長 松崎 正年
 設立 1936年(昭和11年)12月22日
 資本金 37,519百万円
 決算期 3月31日

共通機能会社

グループ横断的な機能を集約した会社

コニカミノルタ テクノロジーセンター株式会社

グループ内の研究・技術開発、商品デザインの受託、知的財産の管理運営などのサービス提供

コニカミノルタ ビジネスエキスパート株式会社

グループ内へのエンジニアリング、ロジスティクス、環境、安全、その他各種シェアードサービスの提供

事業会社

事業別に、業務執行に必要な権限を委譲された会社

コニカミノルタ ビジネステクノロジーズ株式会社

複合機(MFP)、プリンター、印刷用機器などの製造・販売、ならびにそれらの関連ソリューションサービス

コニカミノルタ オプト株式会社

光学デバイス(ピックアップレンズなど)、電子材料(TACフィルムなど)の製造、販売

コニカミノルタ エムジー株式会社

ヘルスケア用機器、材料などの製造・販売

コニカミノルタ センシング株式会社

産業用、ヘルスケア用計測機器などの製造・販売

特定事業会社

持株会社の支援を受けて育成を図る事業会社

コニカミノルタ IJ株式会社

産業用インクジェットヘッド、インク、テキスタイルプリンターなどの製造・販売

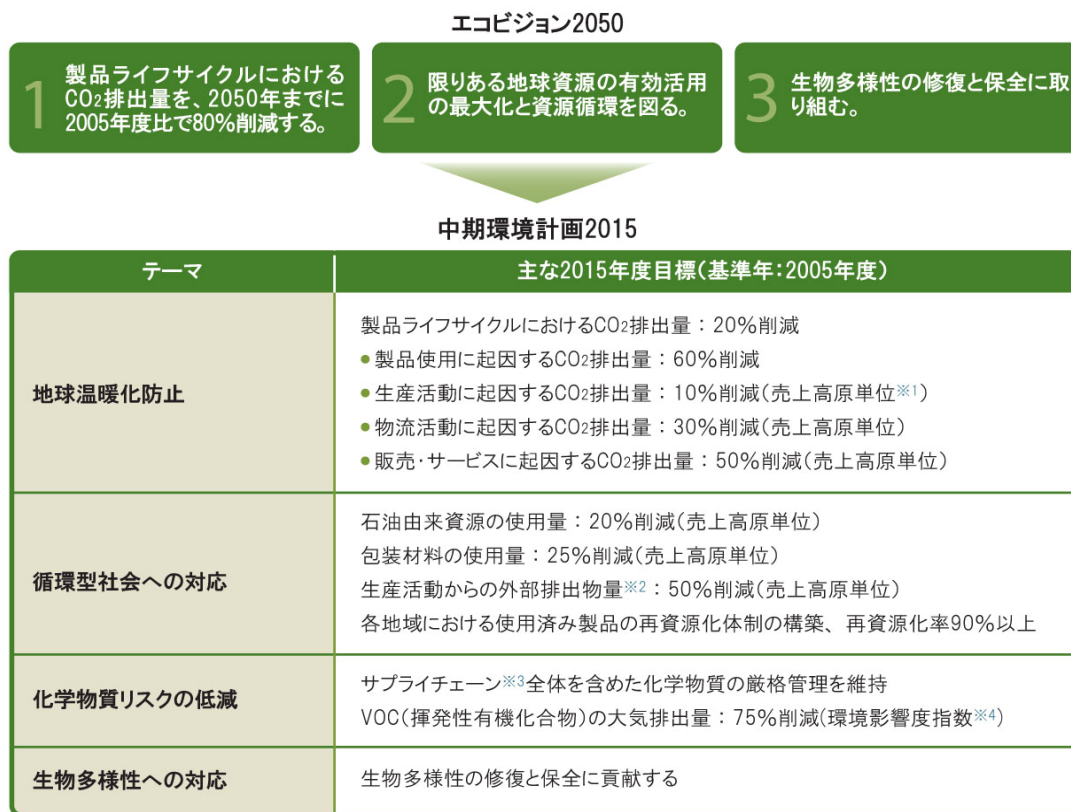
コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

プラネタリウム機器およびコンテンツなどの製造・販売、プラネタリウム建設ならびに運営サービス

3. 「エコビジョン2050」と「中期環境計画2015」

コニカミノルタは、持続可能な地球・社会の実現に貢献し、グローバル企業としての責任を果たすために、2050年までに実現すべき姿を示した長期環境ビジョン「エコビジョン2050」を策定しました。

また、「エコビジョン2050」の実現に向けたマイルストーンとして、2015年度をターゲットとする「中期環境計画2015」を策定しています。この計画では、「地球温暖化防止」「循環型社会への対応」「化学物質リスクの低減」「生物多様性への対応」の4テーマについて、具体的な取り組みと達成すべき目標を掲げています。



※1 売上高原単位：売上高あたりの環境負荷量。

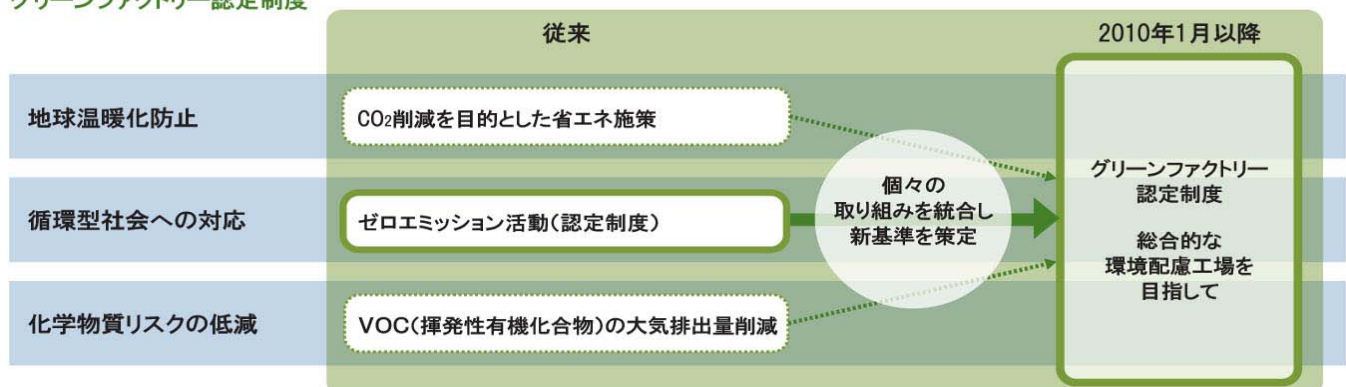
※2 外部排出物量：生産活動にともなって発生する総排出物量から内部リサイクル量と減量化量を引いた、コニカミノルタの拠点外に排出される量。

※3 サプライチェーン：ここでは、上流の素材会社から部品加工会社を経て、コニカミノルタに納品されるまでのルートを指します。

※4 環境影響度指数：VOC排出量に有害性係数(人健康影響、環境影響度)と立地係数をかけ合わせた、コニカミノルタ独自の指数。

さらに、この計画を生産の観点から推進する施策として、2010年1月、生産拠点の環境活動を総合評価する独自の制度「グリーンファクトリー認定制度」の運用を開始しました。

グリーンファクトリー認定制度



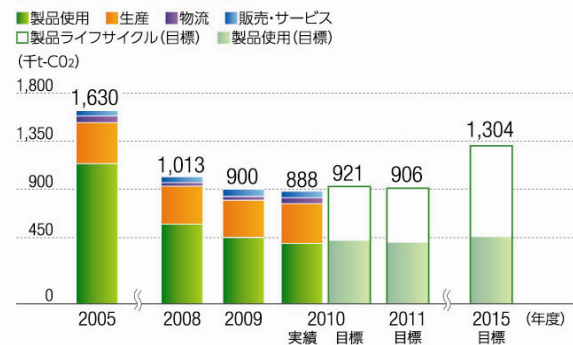
4 . 2010年度の進捗状況

(1) 地球温暖化防止

製品ライフサイクルCO2排出量を2005年度比で、
 目標：43.5% 削減（921千t-CO2）
 実績：45.5% 削減（888千t-CO2）

製品使用時のCO2排出量については、業界トップクラスの低消費電力を実現したモノクロ複合機などを市場に投入し、目標値を達成しました。また、生産活動では、グリーンファクトリー認定制度の運用を通じて、エネルギー生産効率を高め、CO2排出量削減を着実に進めています。しかし、物流活動では、需要変動への対応などともなう航空機輸送の増加が影響し、目標を達成できませんでした。

製品ライフサイクルCO2排出量



(2) 循環型社会への対応

生産拠点からの外部排出物量(売上高原単位)を2005年度比で、
 目標：9.9% 増加（2.7t/億円）
 実績：15.9% 増加（2.9t/億円）

生産活動からの外部排出物量の削減に向け、グリーンファクトリー認定制度の運用を通じて、生産効率向上や内部リサイクルを推進しています。しかし、生産時の排出物負荷が大きい製品の増産や、新工場立ち上げにともなう突発的な廃棄発生などにより、グループ全体では目標値を達成することができませんでした。

生産活動からの外部排出物量



(3) 化学物質リスクの低減

VOCの大気排出量(環境影響度指数)を2005年度比で、
 目標：71% 削減

VOC（揮発性有機化合物）の大気への排出量は、景気回復による生産増のため、前年度比で増加しましたが、年度目標を達成することができました。

環境影響度指数：VOC排出量に有害性係数（人健康影響度、環境影響度）と立地係数をかけ合わせた、コニカミノルタ独自の指数

VOC大気排出総量(リスク換算)



(4) 生物多様性への対応

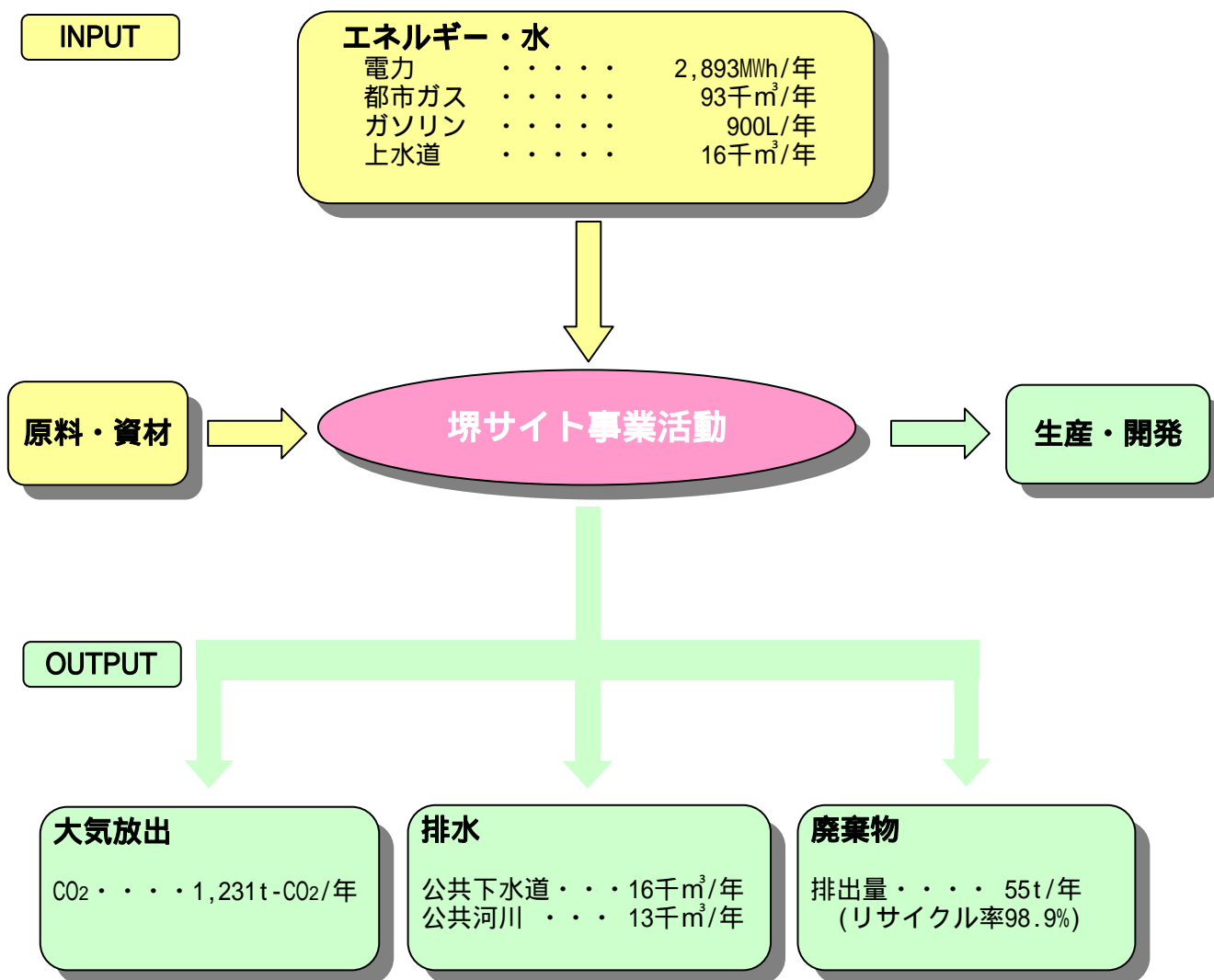
「グリーンファクトリー認定制度」の運用の一環として、生物多様性への対応に取り組んでいます。水資源や排水への配慮、工場植栽の適正管理について対応指針を策定し、2011年4月から運用を開始しました。

生物多様性対応指針(抜粋)

区分	チェック項目
水資源への配慮	使用する水について、総取水量の削減目標を設定し、削減施策を実施していること。
排水への配慮	公共用水域へ排出する排水が、水生生物の生息環境など生態系へ及ぼす影響を確認できていること。
工場植栽の適正管理	工場敷地内で、生態系に悪影響を及ぼすおそれ強い外来侵入種の植栽、種子の播種を行っていないこと。

5 . 環境負荷概要

当サイトにおける2010年度の環境負荷概要は、以下のとおりです。



注1：大気放出のCO₂量は電力・都市ガス・ガソリンの使用量から換算しています。
 注2：公共河川への排水は、揚水した汚染地下水を浄化処理した後の処理水です。
 注3：廃棄物のリサイクル率は98.9%、最終処分率は2.27%となります。
 最終処分率には、再資源化（熱回収など）の残渣も含む。

6. 環境活動

当サイトでは、環境負荷の低減に向けた活動を継続的に実施しています。

(1) 地球温暖化防止への取り組み

当サイトでは、CO₂削減に向けた省エネルギー活動を継続して行っています。

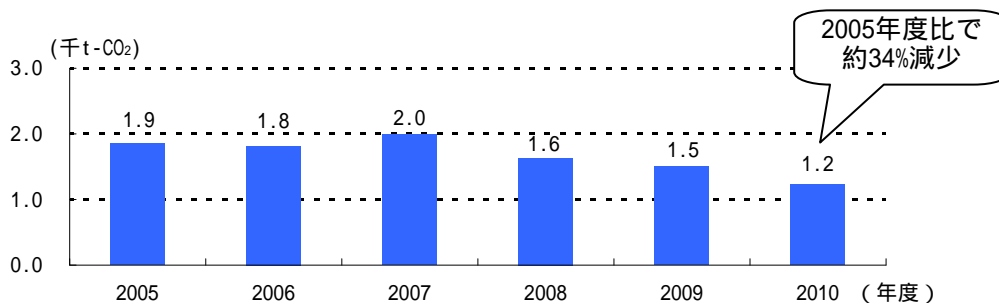


図6-1 CO₂ (二酸化炭素) 排出量の推移

最近の主な取り組みは、以下の通りです。

遮熱フィルムの施工

2010年8月、主要棟の各フロア西側窓全面に、西日対策として遮熱フィルム施工を一斉実施しました。これにより、全施工面積167㎡に対し、試算では年間約3tのCO₂削減が見込まれます。



写真6-1 遮熱フィルム施工

照度測定と蛍光灯の間引き

居室や会議室など39箇所において、照度測定を実施したところ、13箇所において1000ルクスを越えるエリアが見つかりました。このデータを元に不要な蛍光灯の間引きを行い、適正な照度確保とCO₂削減の両方に貢献することができました。



写真6-2 蛍光灯の間引き(食堂)

2011年度夏季節電対応

東日本大震災に伴う電力不足に対する取り組みとして、節電活動を実施しました。省エネ活動は従来から継続して行っていますが、「夏季節電活動チェック表」により定期的な実施状況を確認するなど、更なる徹底を行いました。

表6-1 夏季節電活動(主な取り組み)

空調	オフィス内の冷房温度を高め設定
	昼休みや不在時の空調停止
	フィルターの清掃
照明	昼休みや無人エリアの消灯
	居室、会議室は1/2以上を消灯(間引き、スイッチによるOFF)
事務機器 電気機器	退社時にはコンセントからプラグを抜く
	MFPやプリンター等は、省エネモードに設定
	冷蔵庫や電気ポットの稼働台数見直し
トイレ	電気給湯器の使用停止
	温便座の運転停止、洗浄水の設定温度引き下げ、エアタオル停止

(2) 循環型社会を目指した取り組み

コニカミノルタグループでは、製品の開発段階から、省エネ、リサイクル性、環境配慮の設計を行うとともに、排出された一般廃棄物および産業廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）を徹底して行っています。

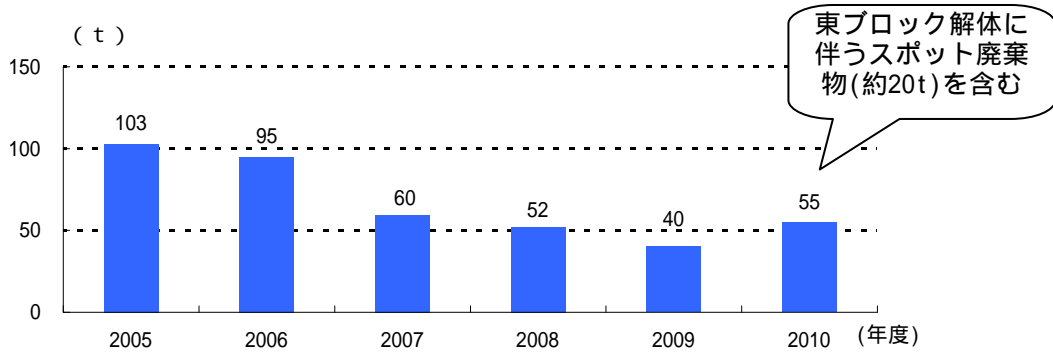


図6-2 廃棄物量の推移

当サイトでは、以下のような取り組みを継続的に実施しています。

分別による再資源化

廃棄物を52種類に分別し、再資源化を促進しています。

緩衝材のリユース

包装用緩衝材のうち、主にエコソフトとエアークッションを積極的にリユースし、廃棄物の削減に取り組んでいます。最終的には、運送費のコストダウンにも繋がっています。



写真6-3 廃棄物置場



写真6-4 リユース緩衝材

(3) 土壌・地下水浄化対策の推進

トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、シス1,2ジクロロエチレンについては、揚水による浄化と汚染地下水の敷地外流出防止を継続しています。鉛、ヒ素、カドミウムについては、敷地内の一部箇所でも汚染が確認されていますが、地下水定期観測では敷地境界の観測井すべてで環境基準値以下であり、周辺への影響はないことを確認しています。



写真6-5 地下水浄化装置



写真6-6 地下水定期観測の様子

なお東ブロック建屋の解体に伴い、土壤汚染対策法第4条に基づく土壤調査を行い、汚染がないことを行政に報告しました。



写真6-7 東ブロック解体工事

工事期間中は、近隣の方々に多大なご協力をいただきました。解体工事は、防音シートや防音パネルを設置するなど、騒音・振動・粉じんに配慮した工法で実施しました。

解体工事完了後の空地には、景観に配慮し、芝生の植え込みを行いました。約4,000㎡の芝生が清々しく広がり、近隣の方々からもご好評をいただいています。



写真6-8 解体後の空地

(4) 騒音

当サイトでは、敷地境界の騒音を定期的に測定し、順法状況を確認しています。その結果、騒音に係る規制値をクリアーしていることを確認しています。

表6-2 騒音測定データ (単位: dB)

時間区分	条例規制値	最大実測値
朝 (6~8時)	60	54.3
昼間 (8~18時)	65	55.2
夕 (18~21時)	60	51.9
夜間 (21~6時)	55	50.6

・サイト敷地境界(4ヶ所)にて測定

(5) 上下水道

当サイトの上水使用量及び下水排水量は、以下の通りです。

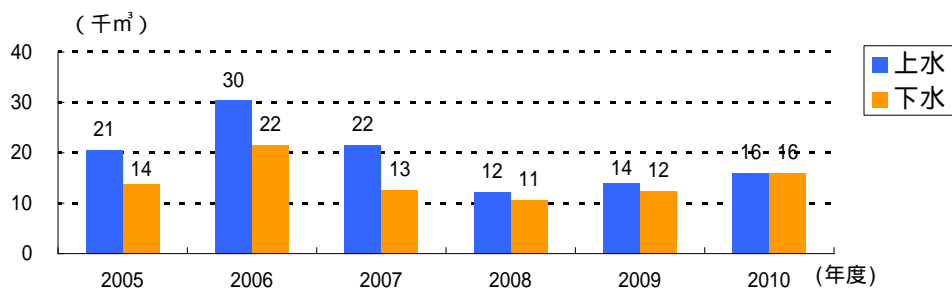


図6-3 上水使用量・下水排水量の推移

7. 安全衛生・防災活動

コニカミノルタグループでは社員の安全と健康の維持・増進を企業経営の基本とし、日常予防に重きをおいた労働安全衛生活動に取り組み、健康かつ安全で働きやすい職場環境の確保に努めています。また、防災訓練はもとより近年社会的問題となっている、自転車による交通災害を起こさない、遭わないために自転車安全運転講習会を実施、さらに社内外問わず救命活動を行えるよう、AED（自動体外式除細動器）および心肺蘇生法の実習を積極的に行っています。これらは、事業目標の達成だけでなく、社会貢献にも必要不可欠なものと位置づけています。当サイト守衛室にAEDを設置していますので、緊急時には社外の皆様もご活用ください。



写真7-1 自転車安全運転講習会



写真7-2 普通救命講習

8. 地域交流

(1) 「堺市まち美化促進プログラム（アドプトプログラム）」への参加

当サイトは、2002年よりアドプトプログラムに参加しています。“アドプト・ロード・大仙西町”として、当サイトが親代わりとなりサイト周辺道路の清掃と、公道わきの花壇の整備・維持などの美化活動を継続して行っています。



写真8-1 サインボード



写真8-2 アドプト花壇の花の植替え

(2) 土居川清掃（サイト周辺清掃）の実施

休日堺市主催で実施される土居川清掃とは別に、平日に当サイト単独で実施しています。春と秋の年2回、工業学校前バス停から少林寺橋までの土居川沿道を含むバス通りで、道路や植え込みのゴミ収集を行っています。



写真8-3 土居川清掃（春）



写真8-4 土居川清掃（秋）

9. 用語集

地球温暖化

地球全体の気温が上がり暖かくなること。気候変動により地球全体の環境に深刻な影響を及ぼすことが懸念されている。

人為的な影響により大気中の温室効果ガスの濃度が上昇していることが原因とされていることから、その削減による防止が必要とされている。

生物多様性

多くの種類の生き物がいて、それらがつながり支えあって生態系の豊かさやバランスが保たれること、また多様な遺伝子が過去から連続とつながっていることを言う。

VOC (Volatile Organic Compounds)

揮発性を有し、大気中で気体状態となる有機化合物の総称。

環境負荷

環境に与えるマイナスの影響のこと。廃棄物の排出、エネルギーの消費等、事業活動に伴ない発生するすべての影響を対象にする。

一般廃棄物

産業廃棄物以外の廃棄物をいう。事業活動に伴わない、例えば紙くずなどが該当する。市町村の許可を受けた一般廃棄物処理業者に処理を委託している。

観測井

地下水の水質監視のための井戸。サイト敷地内にあり、定期的に採水して水質測定を実施し、汚染物質の地下水への浸透がないか監視している。

循環型社会

製品や排出物を循環資源として再利用する仕組みを持った社会のことで、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される。これからの目指すべき社会の姿。

CO₂削減

当サイトではエネルギー源として、主に電力と都市ガスを使用しており、これらの消費量を減じる活動(省エネルギー化)を通して、CO₂削減を図っている。

再資源化

資源として一度利用したものに処理を加え、再び同一のもしくは別の資源として利用できるようにすること。循環型社会構築の重要な手段。

産業廃棄物

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類その他、政令で定める廃棄物のこと。排出事業者が処理責任を負い、許可を受けた産業廃棄物処理事業者へ処理を委託している。

3R (リデュース・リユース・リサイクル)

排出物について、リデュース(減量)・リユース(再使用)・リサイクル(再資源化)を推進し、最終的な廃棄物を減らす取り組み。



KONICA MINOLTA

会社名 : コニカミノルタエンジニアリング株式会社
所在地 : 〒590-8551 大阪府堺市堺区大仙西町3丁91番地
連絡先 : TEL : 072-241-9353 施設管理本部 関西施設部 関西環境課
FAX : 072-245-1416
コニカミノルタ環境ホームページ:
<http://konicaminolta.jp/pr/eco>
発行年月 : 2011年12月